

2017年10月20日
公益財団法人イオン環境財団
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

「第69回全国植樹祭ふくしま2018」の開催に協賛

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也イオン株式会社名誉会長相談役）と公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（理事長 横尾博イオン株式会社取締役会議長）は、2018年に開催される「第69回全国植樹祭ふくしま2018」に協賛します。

イオングループでは、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、東日本大震災の被災地の復興・創生に向けて「イオン 心をつなぐプロジェクト」を発足し、お客さまとともに取り組む植樹やボランティア活動など、さまざまな活動を行っています。

このたび、イオン環境財団、ならびにイオンワンパーセントクラブは、福島県南相馬市で2018年6月10日（日）に「第69回全国植樹祭ふくしま2018」が開催されることを受け、苗木の提供等を含む総額1,000万円相当の協賛を通じ、被災地の復興を支援します。

イオン環境財団は、今後も豊かな自然と人々のくらしを守るため、植樹活動をはじめとする環境保全活動を積極的に取り組んでまいります。また、イオンワンパーセントクラブは、大規模自然災害などにより被災した地域の復旧、復興の支援を継続してまいります。



【「第69回全国植樹祭ふくしま2018」への協賛内容】

■イオン環境財団

協賛金・物品 500万円

■イオンワンパーセントクラブ

協賛金 500万円



【協賛受納式の概要】

日 時： 10月13日（水）15：00

場 所： 福島県庁本庁舎2階「知事室」

贈 呈 先： 「第69回全国植樹祭」福島県実行委員会

主な出席者： 福島県

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

公益財団法人イオン環境財団

公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

イオン株式会社

知事	内堀 雅雄	様
会長	齋藤 卓夫	様
専務理事	林 直樹	
事務局長	本田 陽生	
イオン東北代表	家坂 有朋	

以上

【公益財団法人イオン環境財団】

■植樹

・秋田県下浜海岸植樹（2005年～2009年）

酸性雨や松食い虫の被害にあい、大部分が立ち枯れ状態にあった秋田県の日本海沿岸の松林を再生するため、5年間でボランティアの皆さま4,300名とともに42,250本を植えました。2007年の植樹には、当財団の15周年記念式典にてご講演いただいた、ノーベル平和賞受賞者であり、元ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ女史にもご参加いただきました。

・山形県南陽市植樹（2010年～2012年）

松くい虫被害などで荒れた森林を再生させるため、2010年から3年間で実施。ボランティアの皆さま1,000名とともに5,100本を植えました。

・宮城県石巻市植樹（2012年）

1,600名のボランティアの皆さまとともに、東日本大震災で津波被害を受けた上釜ふれあい広場にて植樹活動を実施。地域に自生する苗木15,000本を植えました。

・宮城県亶理町植樹（2016年～2017年）

東日本大震災の津波により流失した海岸防災林の再生を目指し、宮城県が推進する「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」に賛同し、3年計画にて実施。2016年と2017年は、ボランティアの皆さま2,200名が震災後に同町で採種し、育てたコナラやヤマザクラなどの苗木28,000本を植えました。



2016年 宮城県亶理町植樹

・福島県いわき市植樹（2017年）

福島県・いわき市と締結した「森林づくりに関する協定」に基づき東日本大震災により流失した防災海岸林ならびに沿岸部の再生を目的に行うもので、当日は、700名のボランティアの皆さまとともに、7,000本の木を植えました。

■顕彰事業

・生物多様性日本アワード（みどり賞）

2009年に「生物多様性の保全と持続可能な利用の促進」を目的に、「生物多様性日本アワード」を創設。隔年で国内の優れた取り組みを顕彰しています。

宮城県内の授賞団体

- | | |
|------------------------|---------------|
| ・日本雁を保護する会 | (2011年 グランプリ) |
| ・有限会社熊谷産業 | (2011年 優秀賞) |
| ・特定非営利活動法人田んぼ | (2013年 グランプリ) |
| ・ネイチャー・テクノロジー研究会（東北大学） | (2013年 優秀賞) |
| ・気仙沼市立大谷中学校 | (2015年 優秀賞) |
| ・宮城県漁業協同組合 | (2017年 優秀賞) |

■環境活動助成事業

世界各地で、生物多様性の保全とその持続可能な利用のために活動する団体に対して助成を行っています。

《東北地方で活動を行う団体への助成》（2011年以降）

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| ・伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会 | ・ NPO法人 白神ネイチャー協会 |
| ・ NPO法人 輝く猪苗代湖をつくる県民会議 | ・ (公財) 鎮守の森のプロジェクト |
| ・ (公財) 瓦礫を活かす森の長城プロジェクト | ・ NPO法人 とんぼエコオフィス |
| ・ NPO法人 環境改善協会 | ・ NPO法人 日本ツキノワグマ研究所 |
| ・ NPO法人 環境再生機構 | ・ (一社) ふらっとーほく |
| ・ NPO法人 環境生態工学研究所 | ・ 本州産クマガラ研究会 |
| ・ 草木谷を守る会 | ・ 水原の自然を守る会 |
| ・ グループ「森」の会 | ・ NPO法人 リアスの森応援隊 |
| ・ NPO法人 こころの森 | ・ NPO法人 わたりグリーンベルトプロジェクト |
| ・ NPO法人 白神山地を守る会 | |

■環境教育事業

・「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」

環境分野において、グローバルなステージで活躍する人材育成に取り組んでおり、環境教育事業を重要な活動のひとつに位置付けています。2012年にスタートした本フォーラムは、毎年1カ国1大学を加えながら実施しており、本年は、タイのチュロンコン大学を迎え、8カ国8大学64名の大学生が「生物多様性と再生」というテーマのもと、東北の被災地を中心にフィールドワークを行いました。



宮城県 亶理町での太鼓体験

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ】

■公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

ジャスコ誕生20周年を迎えグループ名称をイオングループに改称した1989年、代表取締役会長(当時)岡田卓也の提唱により、地域のお客さまからのご愛顧により得られた利益を社会の発展に、持続的に活かしたいとの強い思いから任意団体「イオン1%クラブ」を設立。イオングループ優良企業の税引き前利益の1%を社会貢献事業に充当し、「次代を担う子どもたち・青少年の健全な育成を、地域社会・国際社会と連携しながら支援する」ことを目的とした貢献活動を継続。25年を迎えた2014年、より一層安定的な貢献の持続と、多くの皆さまに信頼を頂ける財団を目指し、一般財団法人を設立。翌2015年4月に公益財団法人に移行し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」に資する事業を柱として活動。

■東日本大震災復興支援金贈呈

東日本大震災復興支援のため、募金を実施しました。お寄せいただいた募金10億9,766万4,974円とイオン(株)、イオンワンパーセントクラブからの拠出金を含めた36億円の寄付金を贈呈しました。

■障がい者ものづくり応援募金贈呈

東北の復興と活性化を支援するため、2011年にスタートした取り組みです。「認定NPO法人難民を助ける会」を通じ、岩手県・宮城県・福島県の障がい者就労支援事業所に届けられ、障がい者の方々の方々のさらなる自立と社会参加の支援に役立てられます。

■子どもたちの夢応援プログラム

東日本大震災の被災地の子どもたちの健やかな成長を応援するため、スポーツや文学、音楽などの分野で活躍される方々とともに子どもたちの夢の実現を支援することを目的としたプログラムです。スポーツの分野では、ロンドンオリンピック代表選手が小学校を訪問し、実演披露や体操指導を通じスポーツの楽しさを伝える「東北から夢を」や「ロンドンオリンピック報告会」を開催しました。文学の分野では、次代を担う子どもたちがふるさとの良さを認識することを目的に、古くから日本に伝わる古事記や日本書紀などを題材にした後世に伝えたい各地の民話を、女優の浅野温子さんが一人でさまざまな登場人物を演じる「イオンふるさと発見伝」を開催しています。また、音楽の素晴らしさや夢をもつことの大切さを伝えることを目的に、音楽の都ウィーンを中心に世界で活躍するオーケストラによる演奏指導や演奏会に小・中学生を招待し、コンサートを開催しました。



■福島キッズ森もりプロジェクト

東日本大震災に伴う原発事故によって外遊びが制限されている福島県の子どもたちを、長野県信濃町の大自然の中に招待し、心と身体を解放する機会を提供しました。



■岩手県岩泉町「生活橋」復興支援金贈呈

平成28年台風10号で被災した「生活橋」復旧のための支援金として、1,000万円を岩手県岩泉町へ寄付しました。

■アファンの森震災復興プロジェクト

一般財団法人C. W. ニコル・アファンの森と連携し、東松島市にて学校隣接の森の中に環境学習施設を取り入れた学校建設を支援しました。

■神社境内や社有地にある「鎮守の森づくり」の再生を支援

2015年度まで、近隣の住民を災害から守る防災林として、神社境内および社有地にある「鎮守の森」の再生を支援しました。東北においては、これまで986名の地域の皆さまにご参加いただき、計9カ所で、累計16,433本の植樹を行いました。



2013年 宮城県
気仙沼一景島神社での植樹

【イオングループ各社】

■東北の創生に向けた取り組み

震災から1年後の2012年3月より、「3.11復興への願いをカタチに」を合言葉に、東北の農水畜産業の復興・活性化を継続的に応援するべく、東北の生産者の皆さまのご協力のもと、東北産原材料を使用した商品開発や、国内外のグループ店舗での東北フェアの開催等を通じ、東北産品の販売拡大を図ってきました。震災から5年となる2016年からは「にぎわい東北一つなげよう、ふるさとのチカラ」という新たな決意のもと、「復興支援」のステージから「地域（ふるさと）の創生」のステージに進むべく、グループをあげて地域の持つチカラを成長へのうねりに変え、“にぎわい”あふれる東北の未来をつくりたいという想いで取り組んでいます。



■イオン 心をつなぐプロジェクト

2012年3月にイオンの労使一体で復興支援ボランティア活動などを進める「イオン心をつなぐプロジェクト」を発足。2021年までの10年間で被災地へのボランティア派遣30万人、被災地沿岸部に30万本を植樹する目標を掲げ、取り組みを進めています。「東北復興ふるさとの森づくり」などを通じた本プロジェクトでの植樹本数は、2017年8月末までに217,665本となりました。また、震災から5年を経た2016年5月には、被災地における社会的課題のひとつが「持続可能な地域共同体の再生である」と考え、地域交流型の支援活動を通じて持続可能なコミュニティの再生を目指す「イオン 未来 共創プログラム」をスタートしています。



2017年 第1回高田松原植樹